

かみいけ木賃文化ネットワーク 東京都豊島区・北区

現代版の木賃文化：木賃アパートの活用



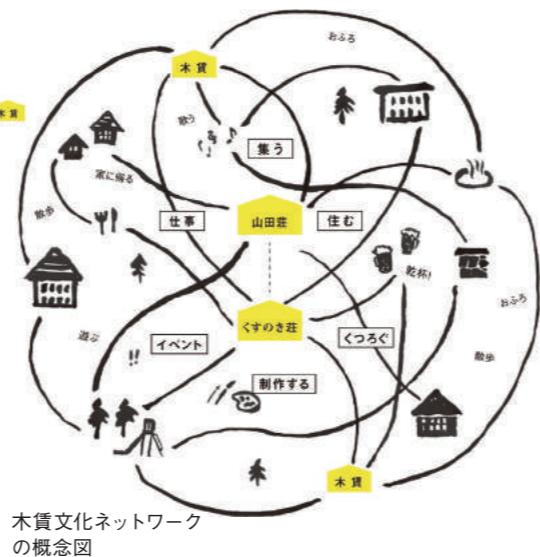
団体設立経緯

かみいけ木賃文化ネットワークは、プロジェクトメンバーの1人が所有する風呂なし木造賃貸アパート（木賃アパート）「山田荘」と空き家だった事務所兼住居をリノベーションした「くすのき荘」の活用をきっかけに、2015年に立ち上りました。

木賃アパートは、風呂なし、トイレ共同というスタイルが多く、現代の住まいとしては色々と機能が不足しています。住まいとしての機能が足りなければ、住む以外の使いを考えたり、別の木賃や公園、銭湯など、まちにあるものをネットワークすることで生きるのではないか。私たちは、このように「足りないものは、まちを使う」文化を木賃文化と呼んで活動しています。

地域概要

豊島区の上池袋周辺地域は、人口1.7万人程度、60年代の高度経済成長



企業人、福祉関係のメンバーなどが加わり、総勢24名になりました。

木賃メンバーは、家や仕事場ではできない表現ややってみたいことを木賃やまちに落とし込みます。木賃文化を醸成するためには、地域向け彼らの活動をサポートしたり、地域の人による多様なアクションを積み重ねることが必要です。プロジェクト2年目となる今年は、活動を地域に開くことを意識し、木賃メンバーとともに木賃を使いながら地域に眠っているニーズを掘り起こすことにしました。

活動内容と成果

OSTEP-1 木賃ロビーの整備と活用

これまで使用することができなかった「くすのき荘」の1階部分の活用が可能となったことから、新たに木賃文化の発信基地・交流スペースとなる「木賃ロビー」をつくりました。

机や椅子などを整備して空間を整えたほか、地域に開かれた場として木賃メンバーによるワークショップ（組子の制作、壊れた物の修理を通じたコミュニティづくり、リペアカフェなど）、地元のお祭りの協力依頼が来たことに端を発する「ちょうどんづくりワークショップ」の実施、断熱が効いていない木賃の暑い夏を「心」の涼で楽しむ「納涼祭」、秋には七輪を使った「収穫祭」などを開催しました。

他にも演劇関係のメンバーは、木造ならではの音の響きを演出に取り入れ、さらにまちの風景を借景した演劇公演「SHOKUPAN1」を実施したり、劇場が多い池袋の地の利を活かした演劇トークサロン「BITEキャラバン」を定期開催したりしました。ロビーの活動の中から地域と場所の特性を読み込んだ企画が生まれたことは興味



深いことです。

また、みそづくりをきっかけに地域の人とつながり、世代を超えた人たちの居場所づくりに取り組む地域グループ「みそのわ」も、活動拠点としてロビーを継続的に活用しています。

くすのき荘の1階にロビーの機能を持たせたことで、地域の人と何気ない会話をするが増えました。その中からイベントやワークショップに参加する



木賃ロビーでの活動。

上:演劇公演「SHOKUPAN1」

下:演劇トークサロン「BITEキャラバン」

市場価値には表出してこない木賃の魅力であり、そのストーリーをきちんと紐解いていくことが木賃の価値を高めるのではないかと考えました。それを「木賃ストーリー」として世に発信したいという思いから「木賃かわら版」というフリーペーパーを創刊しました。

かわら版では、ほかにも木賃を面白く使っている人を取材した「木賃さんいらっしゃい」のコーナーや、地域の面白い人を紹介する「このまちの○×□（通称：ロメロ）さん」、世界の“住む”にまつわるコラムなどを掲載しました。制作に当たっては編集、デザインに関心のある仲間を集め「木賃かわら版編集部」を立ち上げて企画会議を重ねました。



木賃かわら版

創刊号では、私たちのプロジェクト拠点である「山田荘」の特集で、山田荘の元オーナーと入居アーティストを取りました。第2号では、木賃が流行り出した頃に最先端を走っていた大規模な木賃にまつわるストーリーや、木賃を書庫・ゲストルームとして借りているジャズベーシストの取材を。第3号は後述する「木賃サミット」の記録を掲載しました。

木賃ストーリーの取材は難航しました。オーナーさんからは話す内容はないと言われたり、貸している部屋を何度も水浸しにされたといった苦労話を

お聞きしたり。その中で分かったことは、木賃は、やはり難敵であるということです。

オーナーと入居者の距離が近い場合は、良好な関係を築いておくことが重要ですし、逆に離れていると、どうしてもお互い距離が生まれてしまします。そんなことで記述化が難しいお話をもありましたが、取材という口実があることで木賃の内実が分かったり、オーナーさんとの関係を築くことができたのは収穫でした。

OSTEP-3 木賃屋台「足りなさ荘」始動！

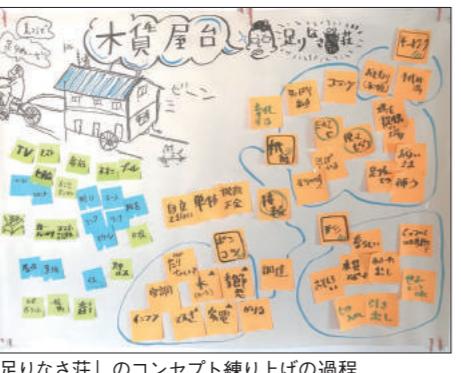
これまで2つの拠点での活動を中心としてきたことから、ネットワーク先の開拓に今一步の課題を抱えていました。そこで木賃ロビーの機能をまちなかに拡張するため、自転車で牽引できる移動式屋台を制作することにしました。

制作に当たっては設計や電子工作ができるメンバーが集まり、アイディア出しのワークショップを実施。何度も議論を重ねて、木賃の特徴を捉えた屋台のコンセプトを練り上げました。

そして、ようやく完成したのが木賃屋台『足りなさ荘』です。この屋台は、風呂なしアパートがお風呂という機能を銭湯に依存しているように、まちの人の手助けがないと全く機能しません。電飾看板・照明・コンセント・スイッチ（ゆくゆくは冷蔵庫）、さまざまな遊ぶためのアイテム（レコードや七輪など）はそろっているけれど、電源や水道はまちの人から借りないと使えません。

一般的なおでん屋台などは発電機、エンジンを使った『自立型』（オフライン型）ですが、足りなさ荘は、まちの人に助けてもらうことを前提にした『依存型』（オンライン型）屋台です。まさに木賃文化のコンセプト「足りないものは、まちを使う」を体现した屋台となりました。

完成後には、近隣の板橋宿の商店街にあるオープン間もないカフェと連携（接続）し、店長特製のフレンチトースト実演・試食会を開催しました。遊び道具として七輪を持参したところ、いつの間にか商店街からつながる路地で、周囲にいた子どもたちが商店街



「足りなさ荘」のコンセプト練り上げの過程



製作中の様子



商店街での利用状況

の魚屋さんから鮭、鰯、鰆を買って焼いて食べるという「七輪の会」が生まれました。

足りなさ荘は、接続した先のまちの文脈をふまえ、そこで起こる出来事の楽しさ、それらを共有できる場をつくる装置として大活躍しました。

OSTEP-4 木賃文化週間の開催（3/21～24）

昨年に引き続き、1年の集大成として木賃文化を実感・考えるイベント「木賃文化週間」を、拠点である山田荘、くすのき荘ほか、まちなかを舞台に実施しました。4日間で160名ほどの方に参加いただきました。メイン企画のいくつかを紹介します。

・木賃ズによる15の自主企画

木賃メンバーやまちの仲間（木賃ズ）による、これから日常になるかもしれない企画を集結しました。たとえば、不要になって捨てられるチラシや雑誌の無常を、壁に貼ることによって昇華させる「貼ってみるといいよ」や、大人も子どもも誰でも参加できる「地域食堂」の実験など、参加型の企画を多く展開しました。

・木賃サミット～昭和の木造アパートの過去・現在・未来を語らう～

全国各地で木賃と向き合って楽しく活動している人たちは、なぜこんなに

も手が掛かる物件と向き合っているのか。対話する中から木賃の新たな可能性が見えてくるのではないかと思い、「木賃サミット」を企画しました。

サミットでは、留学生のシェアハウス運営と放課後の子どもたちの受け入れを行う「CASACO（カサコ）」（神奈川県横浜市）の加藤功甫さん、関西の文化住宅を利用した様々な活用方法を提案し実践する「前田文化」（大阪府茨木市）の前田裕紀さん、そして我々を含めて総勢30名で木賃の過去・現在・未来について語りました。

日々、手間の掛かる建物に全身で向き合うからこそ身体性の回復につながっていることや、壊しやすい建物であるということは、一方で何かをつくりやすいこともある。つまり創造する機会が多いということである、といった話となり、意図した通り、木賃が持つ可能性をたくさん見出すことができました。

・「EDIT LOCAL LABORATORY 編集部」のお披露目

活動の中で、豊島区内で居住する編集者・影山裕樹さんと出会いました。彼は地域を超えて、これから時代のメディアやまちづくりをみんなと一緒に考える研究所「EDIT LOCAL LABORATORY」を立ち上げ、このラボラトリーの編集室が山田荘に入居することとなりました。

木賃文化週間中は、ラボに参加する全国各地さまざまなジャンルの人々のハブとして、編集室のお披露目とトークイベントを開催しました。私たちもこのプロジェクトに便乗して「木賃ラボ」を立ち上げ、全国各地の木賃で活動する人々と情報交換ができるプラットフォームをつくることにしました。

・木賃ズによる15の自主企画

木賃メンバーやまちの仲間（木賃ズ）による、これから日常になるかもしれない企画を集結しました。たとえば、不要になって捨てられるチラシや雑誌の無常を、壁に貼ることによって昇華させる「貼ってみるといいよ」や、大人も子どもも誰でも参加できる「地域食堂」の実験など、参加型の企画を多く展開しました。

隣町の池袋本町の木造・築60年の



活動拠点の1つ「くすのき荘」



木賃文化週間開催中の様子



木賃活用の実践者を招いた「木賃サミット」



木賃文化週間の企画の1つ「まちツア」



池袋本町「マチノオト」での連携展示



参加型企画「貼ってみるといいよ」

る人がまちの中に自然と増えていくことこそ理想とする地域の状態です。そのためには、時間をかけてまちの日常に活動を溶け込ませていくことが大事だと考えます。

今回のプロジェクトによって木賃の可能性を掘り下げたことで、木賃の特性を武器としたコンテンツづくりにつなげることができました。今後は「木賃かわら版」や「足りなさ荘」といった、なんとも役に立たなそうなヘッポコで愛らしい武器を駆使しながら、上池袋地域のみならず全国規模で、木賃文化ネットワークの活動の輪を広げていく予定です。

今後の予定

私たちの取り組みは、単なる空き家の解消を目的としたプロジェクトではありません。住まいとしては見捨てられがちな木賃物件やまち全体のつながりを使って、遊んでいるかのような、たくさんの役に立たなそうなチャレンジをしています。

課題と解決方策

木賃物件は、不動産情報に載っていない場合も多いです。かわら版の制作過程でも実感しましたが、オーナーさんへのコンタクトはなかなか大変です。ネットワーク先の物件の発掘には、まだまだ時間がかかります。

一方でこの2年間、助成をいただき場所の整備やメディアの制作、アウトリーチのツールなど活動の基盤をつくることができました。それによって徐々に認知度が向上し、有難いことに私たちの活動を見て、空き物件を面白く使ってほしいという依頼が舞い込んだり、木賃をもっと楽しくしたいという人が現れてきました。これからは、機動的に動けるチームを状況に合わせてつくりながら、実施体制とネットワークを強化していきたいと思います。

● かみいke木賃文化ネットワーク

設立年月	2015年4月
メンバー数	24人
代表者名	山本直（やまもと・ただし）
住所	〒170-0012 東京都豊島区上池袋4-20-1 くすのき荘
電話	090-7401-5673
Eメール	yamadasou.kamiike@gmail.com
ウェブサイト	https://yamadasoukamiike.wixsite.com/mokuchinnet/
FBページ	https://www.facebook.com/yamadasou.kamiike/
【団体のミッション】	私たちは豊島区上池袋地域を中心に、活動する場を持ちたい人たちとともに、「足りないものはまちを使う文化」=木賃文化の視点から、アクションと場と人をつなぎ、ネットワークが広がることを目指しています。